「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

前期のまとめ

まだまだ暑さの残る季節ですが、朝・晩は涼しさも感じられるようになりました。秋が、そこまでやってきているようです。

さて、昨日から前期後半が始まりました。夏休み前までの学習が、夏休みに強化され、夏休み明けの前期後半、さらなる定着を図ることができるよう、学校でも指導してまいります。前期に学んだことを子どもなりにまとめ、整理し、脳の中に残してくれることを期待しています。他人に頼らず、自分で努力し、脳を活性化させることが肝要かと思います。

自分と周りへの関心を高める

職員室前の机の上が、たくさんの落とし物であふれる時があります。自分の物が無くなって気付かないのでしょうか？ 落とし物を取りに来ることは、決して恥ずかしいことではないので、早く取りに来てほしいと思っています。

自分の持ち物を始め、自分のことに関心を持つことは、子どもが成長していくうえで大切なことです。併せて、「あいさつ」など、周りの人への関心を高めることも大切です。「道路を広がって歩けば、周りに迷惑をかけているかもしれない」、「道路へ飛び出した後には、悲惨な交通事故が起こるかもしれない」などと想像力を働かせてほしいと思います。

みんなで覚えよう「イカのおすし」

不審者や連れ去り事故防止のための合い言葉として、「イカのおすし」があります。ご家庭でも話題にし、ご家族で覚えていただくようご紹介いたします。

「イカ」知らない人について行かない 「の」知らない人の車に乗らない
「お」大声で叫ぶ 「す」すぐ逃げる 「し」大人の人に知らせる

祇園歴史の旅（その46）「龍神洞穴」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「福石観音の境内、丘をはさんだ裏手に大きな砂岩の洞穴があります。洞穴内には五百羅漢仏が安置され、江戸時代の終わり頃に※平戸八景の一つ『羅漢窟』として紹介されています。

この洞穴からは、鎌倉時代頃に人が住んだ跡が見つかり、『龍神洞穴』と名付けられました。土器の破片や焚火（たきび）の跡があり、土には貝殻がたくさん混じっていました。この頃、洞穴の前は海だったので、洞穴に住んだ人は、近くの磯で採れる貝を食べていたようです。龍神洞穴に人が住んだ時代と、福石観音ができた時代は近くなっていますが、もしかしたら、福石観音を創建するときに働いた人などが仮の家にしたのかもしれない。」

※「平戸八景」…平戸往還沿いの8ヶ所の名勝・奇勝（優れた景色、普通ではない変わった景色）。佐世保の「眼鏡岩」、「巖屋宮」、「羅漢窟」、「朝の目」、江迎の「潜龍の瀧」、「高岩」、吉井の「御橋観音の天然石橋」、小佐々の「大悲観」の総称。平成27年3月に「羅漢窟」、「潜龍の瀧」、「大悲観」が国の名勝に指定された。

次回は、「戦国時代の佐世保、佐世保城と鼻線城」と題して、戦国時代についてご紹介いたします…。